

令和元年度厚生労働科学研究費補助金
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
分担研究報告書

心房細動アブレーションアウトカムと QOL 評価を用いた費用対効果の分析

研究分担者 森脇 健介 立命館大学 総合科学技術研究機構 准教授

研究要旨

日本人心房細動患者に対する薬物治療と比較した心房細動（以下「AF」と略す）アブレーションの費用効果分析の枠組を作成した。今後、先行研究のモデル構造に基づき、Local adaptation を行った上で、探索的な分析を進める。

A．研究目的

AF患者に対するアブレーション治療の社会的な価値を考えるにあたっては、有効性や安全性、患者のQOLなど、多様な側面からの定量的・定性的評価が重要となる。加えて、国民医療費膨張の問題に直面する我が国においては、費用対効果や財政的影響の視点からのAFアブレーションの評価を行うことも重要となる。諸外国ではAFアブレーションの医療経済評価の事例が複数報告されている。本研究の目的は、日本の公的医療システムの視点からAFアブレーションの医療経済評価を実施するためのアプローチの整理とデータの利用可能性を明らかにすることである。

B．研究方法

PubMed等の文献データベースを用いてAFアブレーションの医療経済評価の文献レビューを行い、分析の設定条件や課題の整理を行った。
(倫理面への配慮)
文献レビューのため該当なし。

C．研究結果

文献レビューの結果、ベンチマークとなる先行事例1件を特定した(Gao L, et al. BMJ Open 2019)。モデル構造とパラメータの検討を行い、我が国における分析の実施枠組を作成した。研究課題は日本人心房細動患者に対する薬物治療と比較したAFアブレーションの増分費用効

果比(ICER)の推計である。Gao Lらの費用効果分析を参考に2状態からなるマルコフモデルを構築する。必要パラメータは、先行研究を参考にしながらも、可能な限り日本の医療環境を反映するべく各種データソースを活用する。感度分析を行い、不確実性を減じるために必要なデータおよび研究課題を考察する。サブグループ解析を行い、カテーテルアブレーション治療の適正使用について医療経済的観点から提案を行う。

□．考察

必要パラメータのうち、死亡確率とHF悪化入院確率については、PhaseⅢ試験の公表データが利用可能と考えられた。費用パラメータは、今後、JROADとJMD Cを併用して、推定可能性を検討する。QOLパラメータについては、データ収集や既存のデータ探索のアプローチは取らずに、CEA registry等を活用し、AF患者のQOL値に関する文献報告値のレビューを行い、パラメータ推定を検討することが適当と考えられた。

E．結論

日本における費用効果分析の枠組を作成した。今後、先行研究のモデル分析の再現を行い、医療費データの解析やQOL研究の文献レビューを経て、Local adaptationを行う。